

第1回 JFVSS 便り

皆様の厚いご支援のお陰で、JFVSS 第1期生を送り出すことができました。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げたく存じます。

今後は「JFVSS理事便り」と称して、JFVSSに関する情報を不定期ながらに発信する予定です。JFVSSプログラムの概要や現在までの経緯に関しては、皆様は既にご存じだと思いますので、JFVSS理事便り第1回目は、JFVSSプログラムについて頻繁に質問される内容をまとめてご紹介したいと思います。

国内の各学会が専門医や認定医制度が始まっているのに、なぜ米国獣医学の専門医を育成する必要があるのか？

一番の理由は、国際水準の専門医を短期間かつ確実に育成するためです。一部の国内の専門医制度は、非常に高い認定基準を設けているため、実質的には国際水準に近い専門医が育成されると考えられていますが、施設や症例数などの問題から、専門医が育成されるまでに相当の時間を要してしまいます。また、他科の専門医との連携や施設などの条件



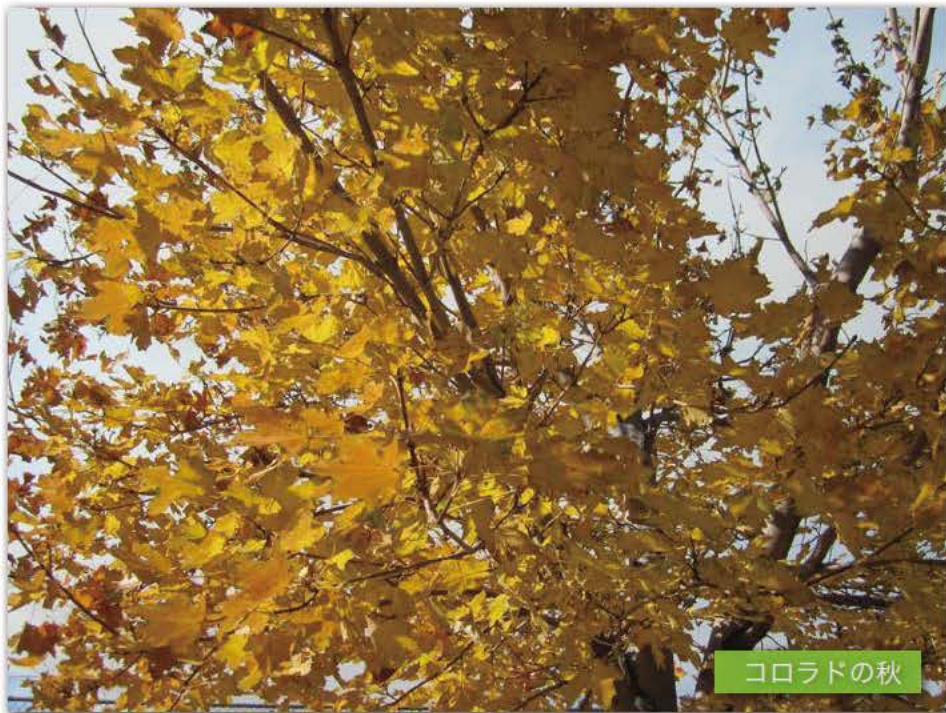
が整えば、米国獣医学専門医は新たな専門医を育てることが可能なため、国際水準を満たす人材を、国内でも育成することが今後は可能となります。なお、認定医制度は専門施設でのレジデント研修が必須でないという点から、専門医制度とは根本的に制度が異なります。

日本に獣医学専門医はそんなに必要？

人口や犬の飼育頭数が日本と米国では異なるため単純な比較になりませんが、米国では、獣医内科学専門医だけでも1000人以上認定されています。日本国内では二次診療施設が増加しているにもかかわらず、国際水準を満たす専門医が国内にはわずかしか存在しないという現状を考慮すると、獣医学専門医の数を増やす必要性は高いとJFVSSは考えています。また、アジア圏での国際的な競争力を日本が身につけるため、さらに、アジア獣医学専門医制度を日本がリードするという意味でも、各分野にある程度の数の専門医は必要であると考えます。

今年度、奨学生を送れなかったけど、来年度は大丈夫？ 万一今後も奨学生が見つからなかった場合の積立金の運用予定については？

今年は適切な外科レジデント候補生を見つけられるよう、JFVSS理事全員が候補生確保に励んでいます。その一貫として、9月12日には北海道での獣医学会、10月17日には東大で説明会を開催する予定です。万一、今年度も外科レジデント候補生が見つからなかった場合、科目を変更して再募集という方法をとることも考えています。また、それでも適切な候補生が見つからなかった場合、今年度振り込んで頂いた（or 頂ける予定の）協賛金は、来年度以降の佐藤先生の留学費用に充当する予定です。佐藤先生は、ちょうど2年目が始まったばかりで、まだ3年～4年の留学期間が残されています。協賛金は1年毎に振り込まれるため、佐藤先生の5年分の留学資金が、現時点でJFVSS口座に入っている訳ではありません。皆様から頂いた協賛金は無駄のないよう、JFVSS理事が責任をもってきちんと運用を致します。



コロラドの秋

JFVSSの現在の資金的な運営状態は？

皆様方が今後も同等の支援を継続して下さる限り、2人目までの資金の目処はついていますが、3人目以降の奨学金の目処は立っていない現状です。

奨学生が専門医を取得後、日本に帰国しないと申し出たら？

選考基準の一つに「プログラム終了後は日本に帰国する強い意志を持ち、日本の獣医学発展のために貢献する志の強い者」という内容が含まれています。ただし、職業選択の自由という観点からは、JFVSSが奨学生の就職先や就職国を完全に拘束することはできません。そのため、国内外2回の面接試験を含めた合計4回におよぶ選考過程で、帰国の意志および将来日本に貢献する意志を、JFVSS理事がしっかりと確認する所存です。

奨学生の帰国後の就職先は？

JFVSSは奨学生の帰国後の就職について一切制約を設けません。国内で小動物臨床に関わってくれている限り、必ず何らかの形で小動物臨床の発展に関与してくれると考えています。

専門医になっても、帰国後に就職先がなかったら？

国内には米国獣医一般内科あるいは米国獣医外科学専門医がいなかったため、大学を含め、多くの二次診療施設などから魅力的なオファーがあることが予想されます。そのため、彼らの就職先が見つからないことは想定していませんが、万一そのような事態が発生した場合、JFVSS理事が各大学の特任助教などの短期的なポジションを斡旋し、長期的なポジションが見つかるまでの間、JFVSSは継続して支援する予定です。

JFVSS代表 小林哲也

JFVSSとは？

日本獣医学専門医奨学金基金の略名です。2008年11月、米国コロラド州の州知事の声がけて、「コロラド州とアジア2カ国(日本および中国)との交流を図り、相互に有益な事業を展開しよう」というプロジェクトが始まりました。その一環として、コロラド州立大学獣医学部(以下CSU)から国内の各方面に打診があり、2011年6月にJFVSSとのプロジェクトも始まりました。

CSUとJFVSSとのプロジェクトの詳細を次項以降にご説明致します。本プロジェクトでは、日本側は人材を、米国側は専門医教育プログラムを提供し、両国の将来の関係を担う人材を共に育てるということを目的としています。具体的には、CSUはレジデントプログラムにおける日本人枠を毎年1名確約し、JFVSSは人材の選考および経済的支援の管理を担います。JFVSSは、奨学生が安心してレジデントプログラムを継続できるよう様々な角度から継続して支援を行います。

また、JFVSSは2012年4月22日、一般社団法人として認可されました。

事務局：

公益財団法人 日本小動物医療センター附属
日本小動物がんセンター内
〒359-0003 埼玉県所沢市中富南
2-27-4

メールアドレス：info@jfvss.jp

ファックス：04-2943-8698

公式ウェブサイト：www.jfvss.jp



コロラド州立大学 大学病院のメインエントランス